

令和2年11月2日発行



兵庫県立龍野北高等学校図書委員会

図書室カレンダー

11月						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

【通常開室時間】

昼休み: 12:45~13:10

放課後: 15:40~17:00

／ 閉室日

毎週火曜日・木曜日のお昼休みに、移動図書をアセンブリホール前で実施しています。教室にこもらずに、一度足を運んでみては？お待ちしております♪



知っ得！豆知識！

11月1日は何の日でしょう？
正解は『本の日』。なぜかって？
日付の日にちを本棚に並ぶ本に見立てて（111）、11月1日に指定されているんです。となると、11月はずっと本の日…！図書室へのたくさんの来室、お待ちしております♪

祝！読書感想文最優秀賞！

■作品名『看護師の素晴らしさ』

1年6組
原 悠月 さん



書名：
『看護師が流した涙』
著者：岡田久美

※裏面に感想文全文を掲載しています。

図書委員のおすすめ本

『ビブリア古書堂の事件手帖4』

三上 延



珍しい古書に関する特別な相談や謎めいた依頼に、ビブリア古書堂の二人は鎌倉の雪ノ下へ向かう。その家にあったのは江戸川乱歩の膨大なコレクションの数々……。そこで展開されていく謎解きとはどんなものなのか？！このシリーズは1～4巻まであるので、余力がある人は、ぜひ1巻から読んでみてください！

【913-ミ-4】

紹介者 3-3 寺田あさひ



『リアルフェイス』

知念 実希人

美と金のためならどんな仕事も完璧にやり遂げる天才美容形成外科医の柊貴之。そして、中途採用の麻醉科医の朝霧明日香。この二人の出会いが、天才美容形成外科医である柊の裏に隠された謎を解き明かすことに……。また、柊とある事件の繋がりをも導くこととなるのだ。予測不能の医療サスペンス。この本を読めば、あなたも絶対騙されます！

【913-チ】

紹介者 3-1 大寺克弥



最優秀賞おめでとう！

令和二年度第66回青少年読書感想文兵庫県コンクール 播磨西高校支部 最優秀賞

『看護師の素晴らしさ』一年六組 原 悠月

私の夢は、看護師になることだ。早くに亡くなってしまった祖父を看護していた看護師に憧れ、夢の実現のために頑張っている。

しかし、現在、新型コロナウイルスの影響で、医療現場が逼迫している様子や退職を希望する看護師が増えていることなどが、メディアで報道されている。その様子をよく見るようになった私は将来看護師として働くことに不安を感じた。読書感想文を書くにあたって、看護師という職業についてよりリアルに感じたい、知りたいと思い、この本を読んだ。

この本は、一定の勤務先や専門領域を持たない、シブシーナースと呼ばれる看護師が様々な患者との出会いと別れを書いた本だ。専門領域を持たないため、この本には様々な病名が登場する。その中でも、私の心に響いたのは末期がんの患者の話である。なぜならその病は、私の祖父が命を落とした病と同じだったからだ。

私が一番心に残っている話は、原発性のがんが複数の臓器に発生する、末期の多重がん患者の母親と、その家族の話だ。余命を宣告された母親が、数日後にある娘の小学校の入学式に出席するために、病と闘つ。母親が看護師にだけ心の内を打ち明ける場面だ。

「私……自分が死ぬのは別に怖くないんです……ただ、娘の成長と一緒に喜んであげられないのは……やっぱりつらくて……」

という母親の一言に、私は胸がキュッと締めつけられた。もし、自分が母親だったら、自分の死より娘に何を残してあげられるかを考えられるだろうか。娘という存在のいない私には、想像することはとても困難だった。しかし、自分が娘の立場だったらどうだろうか。六歳にして、母親が死と隣り合わせでいつ亡くなってしまふのか分からないというのは、自分にはとても耐えられないと思う。何かしてあげたいし、力になりたいという思いと、お母さんに甘えたい。一緒に過ごしたいという思いの間で、子供ながらに葛藤していただろう。

私が素晴らしいと思ったのは、看護師の対応だ。看護師は基本三交代で、交代時に患者の情報を引き継ぐ、申し送りという仕事がある。その母親の担当看護師が、病室に訪れた時、カーテンが閉めてあり、開けてみると毛布が不自然にこんもり盛り上がっていたという場面がある。毛布の中にいたのは、母親とその娘で、お母さんに甘えていたのだ。本来、見舞客をベッドに上げるのはあまり良いことではない。しかし、看護師は笑顔で了承したうえで、他のスタッフにベッドカーテンが引かれている時は、娘さんが甘えている時間なので邪魔しないように申し送ったのだ。私は、心がじんわりとあたたかくなったと同時に、看護師という職業が少しだけ分かった気がした。私が一学期の授業で習った申し送りは、患者の症状や投与した薬、点滴の種類などを伝えるというイメージだった。患者自身の快適な生活と、家族の時間を守るために、細部にまで気を配ることのできる看護師は、自分が目指すべき理想の看護師像だと思った。

現在、収束する気配のない新型コロナウイルスの大流行。日に日に逼迫されていく医療現場で、コロナウイルス感染に怯えながらも必死に看護を続けているのだと思うと、やはり自分が医療者になることができるのか不安になる。しかし、今回読んだ本の看護師のように、自分のしたことが誰かの活力になったり、誰かの小さな幸せになるのは、自分自身も幸せな気持ちになる事ができると改めて感じ、早く看護師として働きたいと強く思った。

申し送りをした看護師のように、患者とその家族の立場に立って考えるだけでなく、患者の病気と向き合う一人の医療者としても、患者の心に寄り添うような看護師になりたいと改めて思った。

毎日、多くの人が亡くなったり、小さな命が生まれたりする病院で働くことは、今自分が持っている死生観を大きく変えてくれると思う。それゆえ、たとえ看護師として働いていない時でも自分の命、他人の命に真剣に向き合える素敵な大人に、医療者になりたいと私は思った。

（書名：『看護師が流した涙』岡本久美）